

企画名：臨床教育力の向上をめざしたケアリングCSD (Clinical Staff Development)
実施日：平成26年8月2日
講師：安酸史子 (防衛医科大学校看護学科教授) 報告者：崎浜 礼子 (沖縄県立北部病院 副看護部長) 金城 明子・岸本 典子 (北部地区医師会病院 師長) 大城 和江 (琉球大学医学部付属病院 副看護部長)
企画実施組織：主催・名桜大学大学院看護学研究科 共催・名桜大学看護実践教育研究センター 共催・ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム
企画の目的・概要 (企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。) ケアリング概念は、看護教育や臨床における継続教育の重要な看護実践能力の要となっていくま す。ケアリング理論にもとづく看護実践は「教授-学習」過程で修得され、学生と臨床実習指導者の 双方の成長をもたらす「経験型実習教育」において学修することができます。
企画実施報告 日時：平成26年8月2日 (土) 14:00~17:15 場所：名桜大学北部地域看護系医療人材育成支援施設 講義室1 テーマ：経験型実習教育とケアリングCSD 参加者：49名 プログラム：13:00~受付 14:00~14:05 オリエンテーション・CSD 受講前アンケート説明 14:05~15:50 教育講演「経験型実習教育とケアリング」 15:50~16:05 休憩 16:10~17:15 H25年度 第1回CSD in 福岡 報告会 「卒後1年目看護師の支援について」 17:00~17:10 質疑応答 17:10~17:15 講評 解散時、受付前・後アンケート回収
企画の実施評価 ＜アンケート結果より＞ ご意見・ご感想等 *経験型実習教育とケアリングの重要性を知り、その考え方について感銘を受けた。実際に実施する 場合の難しさがあると思うが、意識して行っていきたいと思う。 *これから学生と関わるにあたって、どう考え行動したらよいか考える機会をつくっていただきあり がとうございました。学生の思いに焦点をあてることは、思った以上にむずかしいが、一緒に考え行 動することでお互いのスキルアップにつながると思う。また、新人さんとの関わり方も上記と同じ だと思う。忙しくてもじっくり話を聞く、言える環境をつくることは指導者として大切なことだと 感じた。中堅看護師の教育はとても大切なことだと思う。自分たちが受けてきた教育と現代の教育 の有り方とのギャップをどう受け止めるかが大切であると感じた。

